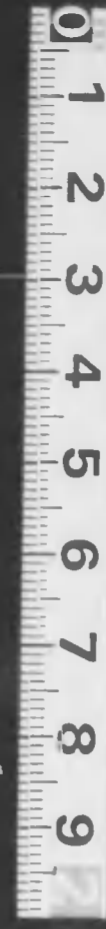


週
報
寫
眞

情 報 局 編 輯
二十 月 五 日 · 第 三 十 一 號 · 七 十 二

勝
ち
ぬ
け
造
船



風浪と戦ひ
 敵機敵潜の跳梁下に挺身し
 儼として死守しつづける
 金剛不壊の海上輸送線
 そのかげに君達船員の不撓の海員魂がある
 そのかげに君達造船戦士の不屈の闘志がある
 第一線の將兵が誰よりも君達に感謝してゐるぞ
 一億國民がひそかに君達の健闘を祈つてゐるぞ
 海上に硝煙晴るゝ日
 七洋は君達の不滅の勳に
 いよく燦々と輝くであらう

古賀聯合艦隊司令長官 航空母艦上に勇士を激勵



さる十月二十七日敵米軍が西南太平洋モノ島上陸以來、十二月三日の第六次ブーゲンビル島沖航空戦に至る歴々の海空決戦及び中南太平洋ギルバート島を中心とする航空戦において、わが聯合艦隊は、再び世界を驚倒させる大戦果を収め、敵が呼號する總反攻の出鼻に一大痛撃を喰はせた。敵が宣傳これ努めた一大艦隊勢力も、徒らに尅大なる海底艦隊の編成に役立つに過ぎなかつたのである。

だが、ギルバート諸島を通じてわが内南洋を窺はんとする所謂ニミッツ攻勢も、更にわが西南太平洋の重要戰略據點ラバウルを奪回せんとする敵の執拗なる企圖も、容易に終焉するとは思はれない。

戦局は正に重大。われわれは前線將兵の赫々たる偉勳に満腔の感謝を捧げると共に、一體でも多く、一艦でも多くの熾烈な要望に應へ、すべてをあげて戦力化する必勝の決意を固めなければならぬ。

補給戦は勝利の鍵



苛烈な戦局と補給戦

「近代戦は補給戦」といわれるが、この言葉が今日ほど適切にあらはれる時はない。わが國が今日直面してゐる戦局の實情を改めて凝視するならば、晝夜を分たぬ死闘を繰返しつつあるソモン、ニューギニア方面並びに最近敵が出現したギルバート諸島等は、いづれもわが本土から二千數百哩を隔てた遠距離の戦場であるばかりでなく、そこでは彼我の間に文字通り鎗をけつる航空戦、海戦が連続し、これに伴ふ消耗もまた莫大な數量に上つてゐる。

敵アメリカは航空機、艦船の「量」にもものをいはせて、連日無二わが戦路要線の突破を企圖し、強引な反攻作戦を繰返しつつあるが、この頑敵を撃滅するためには、皇軍將兵の烈々たる闘魂と卓抜な戦闘技術に加ふるに、十分なる飛行機、艦船、兵器の「量」をもつてしなければならぬことは多言を要しない。

更にこれら軍需品並びに將兵を前線へ送り届けるためには、まづわが輸送船の「量」を確保しなければならぬこともまた火をみるより明らかである。前線の將兵は日夜雲霞の如く大舉來襲する敵機を邀撃し、或ひは敵地へ進攻して、寡勢よく敵倍乃至數十倍の敵を相手に、不利なる戦場を黙々と戦ひ抜きつゝある。この戦場の實情を想ふとき、前線への補給をひきうける輸送船の任務がいかに重且つ大であるかを知るとともに、戦場の勝敗がいかに「補給」にかゝつてゐるかをはつきり知ることができるのである。

補給戦は勝敗を決定す

「補給戦」は窮極に於て、實に戦争の勝敗を決定する鍵となつて来る。いな、既にさうなつてゐる。われらはこの一點を十分念頭

□ 海上補給路を断たんとする敵の野望を破砕して輸送船は進む。海軍に守られつゝ

に刻み込んで、造船に、修理に、はたまた輸送船の運航に二倍、三倍の努力を傾注して、前線將兵の奮戦力闘に協力しなければならぬ。

そのみでなく、今日わが國の實情は、鉄後の生産増強に役立つ殆んどあらゆる原料、資材が直接、間接に海上輸送に依存してゐる。

續戦の大勝によつてわが國が確保した南方資源地帯はもちろん満洲、中華民國、タイ、ビルマ、佛印などの大東亞共榮圏内の資源を適地へ輸送し、戦力化するためには、海上輸送の確保は絶対に不可欠の要件であり、海上補給路の確保こそ、大東亞戦争を戦ひ抜き、大東亞の經濟建設を達成する上の要諦である。更にまた海上補給路を確保する上の第一要件は船腹の増強であり、造船の飛躍的促進以外にない。

現に敵アメリカは強大な生産力を持つて、われに補給決戦を挑み、船腹競争を仕掛けてゐる。最近、米國戰時生産局長官ドナルド・ネルソンは「本年十月中の造船高は百六十六万重量トン、本年初頭以來の造船高は千五百二十九万二千重量トンに達した」と發表してゐるが、その眞偽は別として、敵の造船計畫の進捗は絶対に輕視を許さぬものがある。

さらに敵の反攻企圖が熾烈となり、戦争の様相が愈々苛烈を加ふれば加ふるほど、戦争は「補給戦」としての性格を益々明瞭にして来るのであつて、敵もまたわが補給路の攪亂を作戰の重大なる一翼としてこれを積極化して来ることは必至である。

敵はわが大東亞建設が著々と進行し、わが戦力が日に／＼強化するのをおそれ、戦略的にもわが海上補給路を寸断せんとしてあらゆる手段と戦法をもつてわが補給路の攪亂に狂奔しつゝある。今次戦争が結局に於て、大消耗戦であり、補給戦であることを敵も常に忘れないのである。

補給戦に勝ちぬく途

敵の反攻目標がこの點にあり、作戰の重點もまた、こゝにおかれてゐるとすれば、我が方に於ても、今こそ船腹の増強に鉄後の總力を傾倒し、敵の挑む「補給決戦」にも斷乎勝ち抜かなければならぬ。

今や太平洋戦局は、敵の航空基地奪回を目指す執拗にして、強引な反攻作戦に對するわが海軍航空部隊の勇猛果敢なる攻撃の應酬によつて、戦争の規模はますます擴大するばかりでなく、大東亞防衛のわが戦路要線に直接指向された敵の作戰目的は、絶対に輕視を許さざるものあり、前線も鉄後もひとしく今日の決戦を戦ふ戦士として奮起すべきである。

最後に、この緊急を要する補給の決戦場裡にあつて、特に留意しなければならぬ一事は、たとへ如何に多量の船を建造するとしても、それ等が當面の緊急事態に役立たなければ意味をなさぬといふ點であつて、換言すれば「短時日」に「多量」の船腹を建造することが、刻下の要請に應ふる最善の途である。

「補給決戦」においては「時」が極めて重大なる役割を演ずることを重ねて銘記し、一刻も早く「補給決戦」に處する鉄後の總員配置を完了し、一日も早く、一隻でも多くの船を造り、前線への補給と鉄後生産増強の達成に萬全を期さなければならぬ。

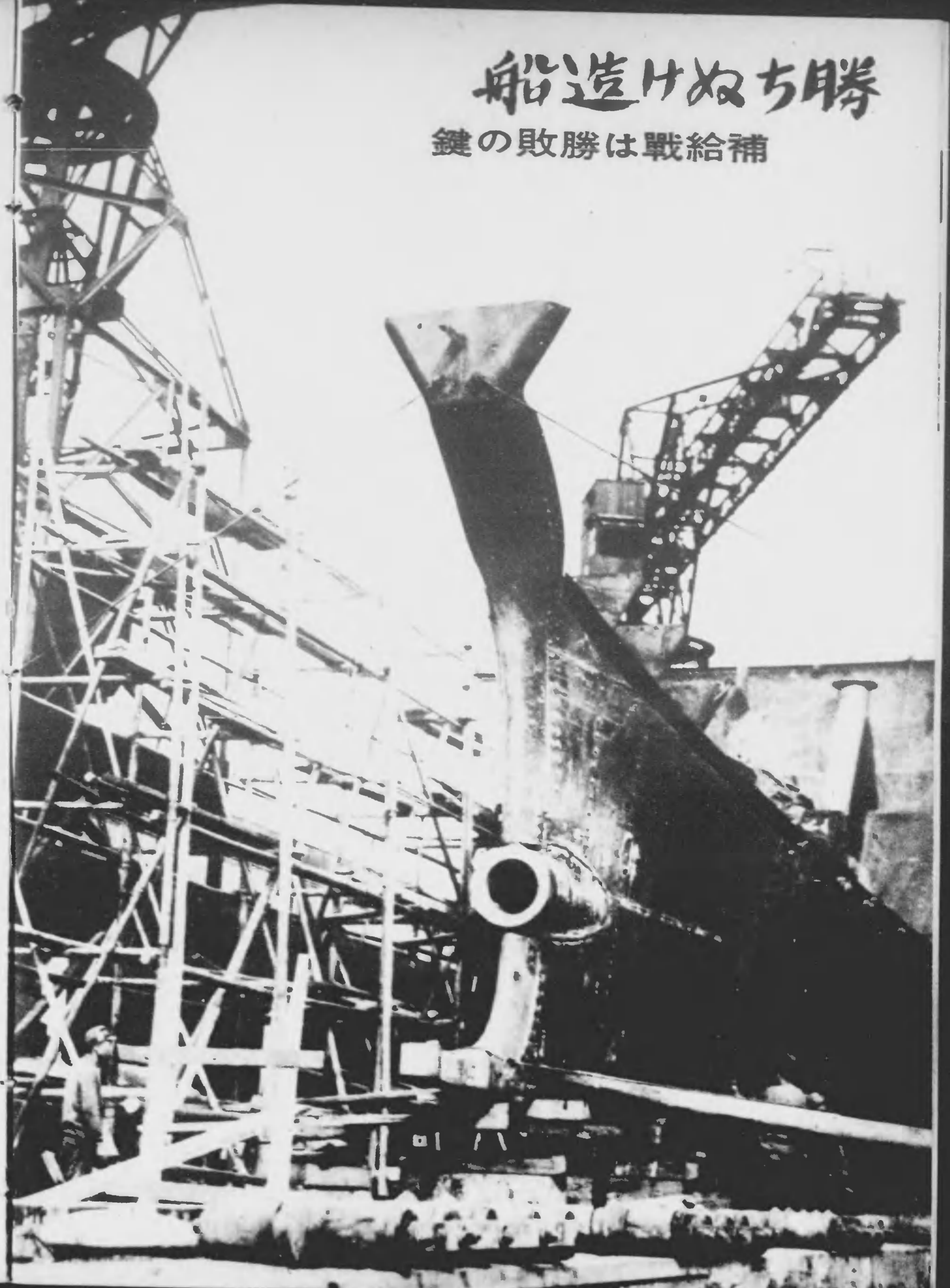
大本營海軍報道部

□ 輸送船は補給の血脈だ。船腹に覆された物資は飛行機となつて南洋の決戦場へ飛び渡る。



勝ちぬけ造船

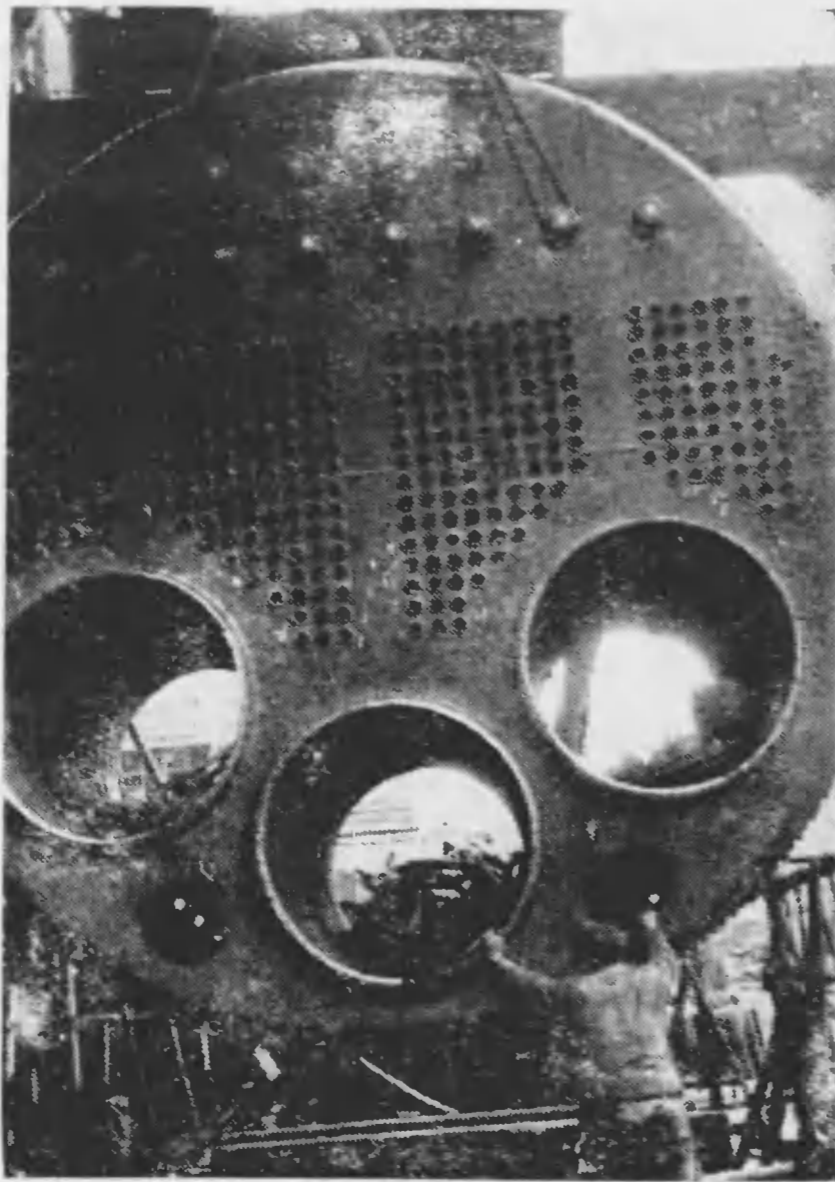
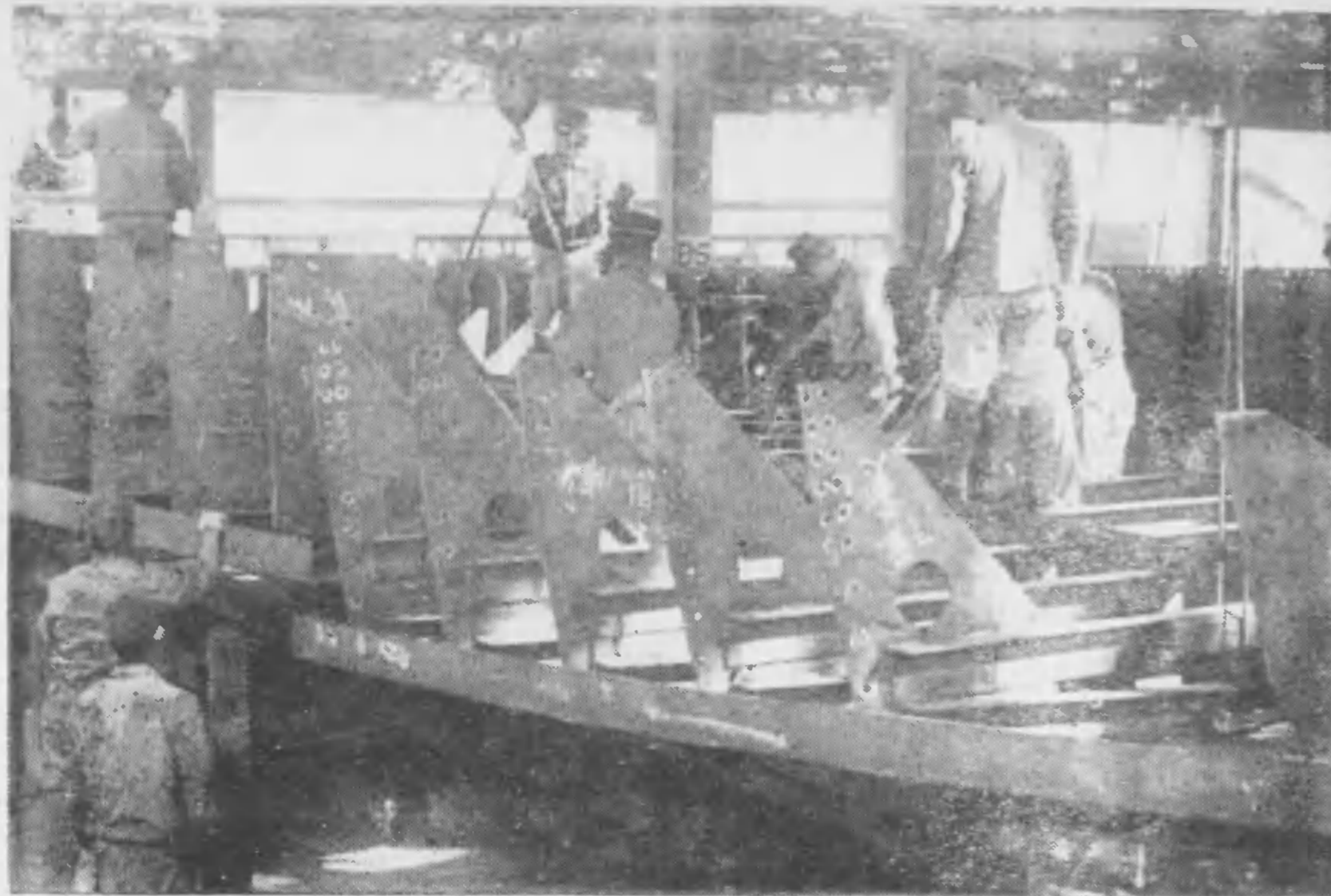
補給戦は勝の鍵



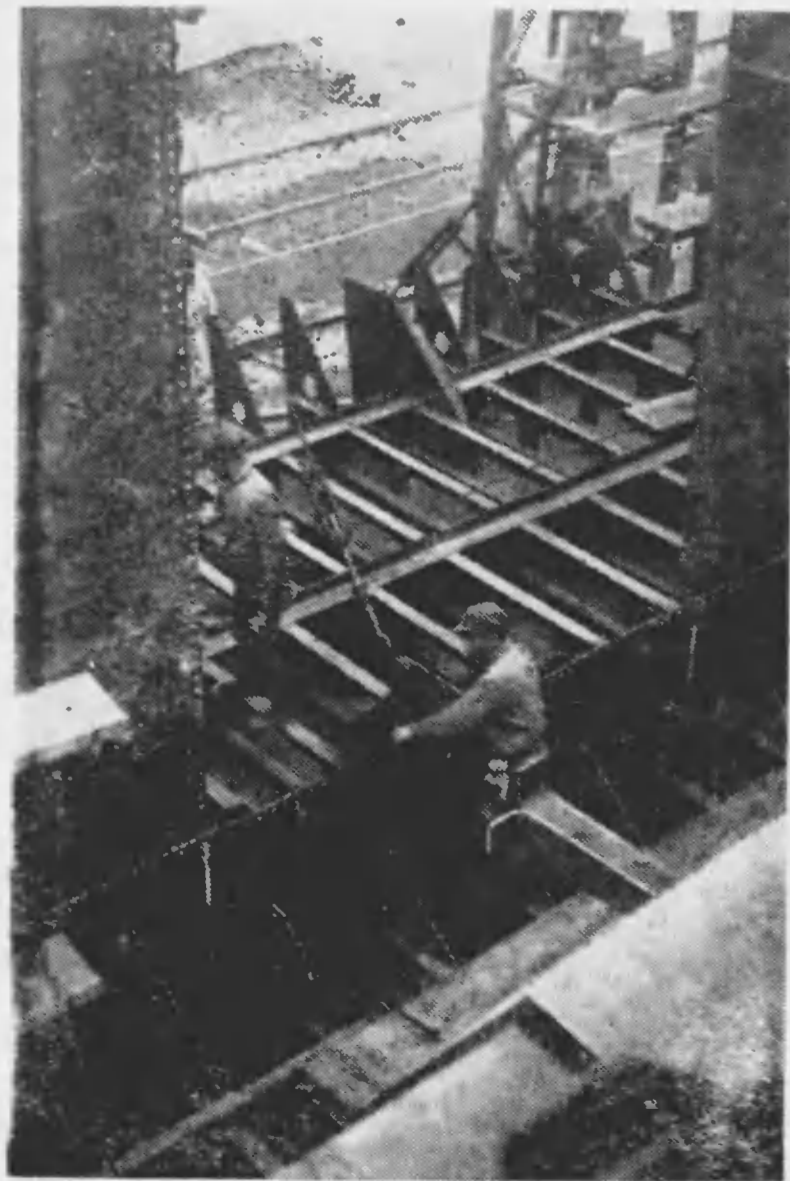
◁ 一隻運水すれば、勝ちぬけの第一工事が始まる。——船底の組立作業

⇒ 船底作業の状況。前景に見えるソロバン玉のやうな軌道に乗って、各工段から進水まで作業が流れてゆく

◁ クレーンで運ばれてゆく完成されたボイラー



◁ 第一工事が始まって数日たったで作業は第二工段に流れてゆく。船内の組立



勝ちぬけ造船



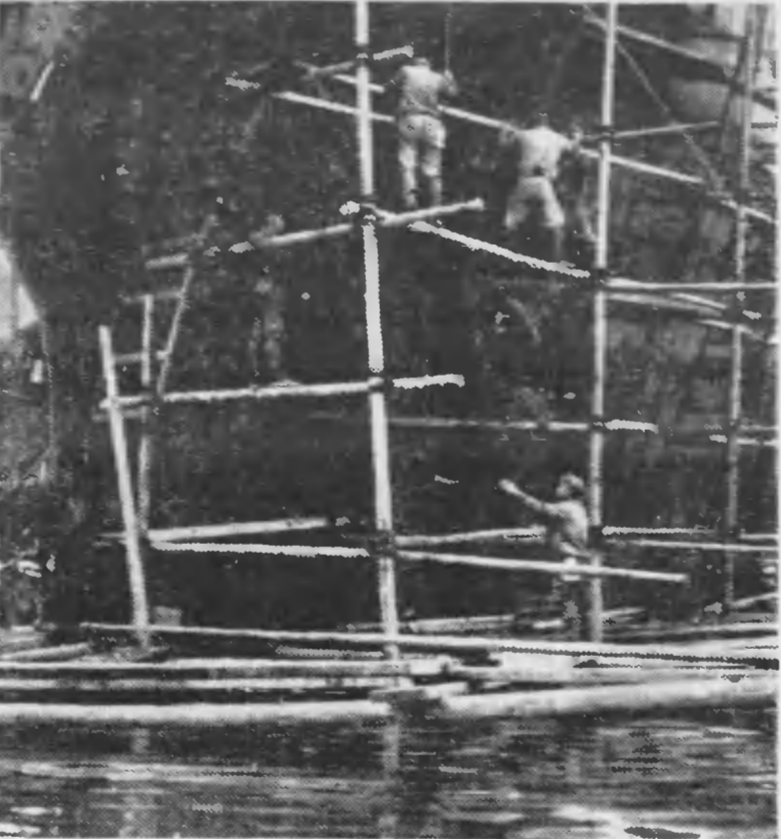
冬空を穿つて逞しい
艦骨の骨格



推進機工作に精魂を
こめる工員



工員が奮闘、第三工区
で甲板の取付作業



いよ／＼第四工程、晴れの
進水の日も近い

今日進水の日、戦前のやうなまで姿はないが、
堂々巨艦は興業としてよ／＼大洋を君んでまさに雄飛



造船作業の
劃期的推進

昨年初頭、最重要國策として計畫造船が実施されてから、各造船所は海軍艦政本部の指導監督の下に各能力に感じて一齊に造船作業の促進に邁進したのである。政府を始め、あらゆる機関はこれと同時に造船作業のために、材料方面においても、勞務方面においても、また動力方面においても最優先的に協力しようとする。戦局はいよ／＼重大化し、いまや總力戦の最重要時となり、輸送力の強化は眞に最高度の重要性を示してきた今日、一般國民はあらゆる野において造船促進に協力しなければならぬことはいふまでもない。

計畫造船實施とともに、従来千艘萬艘であつた船舶の設計に對して標準化が行はれ、貨物船及び油槽船をばせで僅かに數種類に限られ、その設計の内容も非常に簡易化せられ、船の性能と運轉能率に重點を置き、外觀や戦時には不必要と認めらるゝものは犠牲にした、いはゆる實質主義に改められた。また従来は一造船所である／＼異つた船を作つてゐたが、この際整理して一造船所で同一型船の建造を繰返し行ふこととした。このため建造工數が著しく減り、建造期間も従來の三分の一から五分の一位までに短縮せられて來た。

建造方法も従來のやうに一枚の鋼板や一本の肋骨を船臺上に運び、一つづつ丹念に取付けて行ふやうなやり方はやめて、地上で相當程度の大きな形にまで組立て、ゴソソリ船臺へ起重機で運び取付けるといふ、いはゆるブロック式建造を行つてゐる。従來足場の上でやつてゐたやりにくい仕事が無減し、作業のやりよい地上で細かい仕事は全部片づけ、船臺上では單にこれらを繋ぎ合はせる程度である。従つて仕事の難易の差は非常に大きい。しか、これには相當な力量の起重機が要するが、艦政の貧弱な造船所でゴソソリ組立てるわけでも相當能率は上がるが、さうにブロック式の實施によつて、成果は劃期的なものとなつてゐる。

大ぎに造船所の増設であつたが、従来は各社が思ひ／＼の設計で賣出されてゐたため、日よまたい／＼の型の新た船を建造してゐたため、多量建造にはさうな縁起も施されなかつた。艦政本部の指導協力の下に改善が行ひ、造船所施設の調査研究を實施して、是に採長短することによつて、造船所の増設、ある。

斯ら、建設した造船所でも、さうに是の研究を徹底的に行ひ、殆んど準備した多量建造様式を探つてゐる。例へば戦前の艦臺を一齊に建造する方法や、一箇か二箇の少量の艦臺でごく短期の間に一隻づつ、水させる方法等もある。また、従来の方法も従来のやうにヘットと滑り下りるもの、トロッコに乗つて水するもの、或ははねか國としては、従来あまり行つてゐなかつた横滑り方法等、地區的な状況に応じて、多量建造を目的とした種々なる方法を探つてゐる。

大ぎに材料であるが、主要材料たる鋼材は計畫建造開始前には寸法の種別が相當多かつた。艦政本部ではこれを思ひ切つてごく少數に制限し、使用範囲も限定し、寸法を制定したから、生産性は著しく大きくなり、また、一方、製鋼所をウツと高めることが出来た。これとともに主務省と協同をして、配給方法の合理化を行つたか

★ 學兵 凛平として入營す ★



二 夢にまで見た陸軍生活。それがいま目の前に
たつてくる。軍服を着た大地を歩む。冬は雪を
踏み、夏は汗を流す。大団長は、この道を
歩かなくてはならぬ。



軍靴に履きかへて直ちに營庭に出る。す。胸襟を
まく。これで名刺ともいふ派兵隊になる。例に
まじりて、この男も、今日からは一本の旗
を背負ふことになる。

十二月一日、この日、全国にわたつて陸軍
への學徒入營がまづ一せいにいはれ、ついで
に海軍への入營は十二月十日に行はれた。
一億の期待と感激とを双肩に擔つて、學兵
は歡呼の中を、遠くした歩調で營門をくぐつ
ていった。その姿は正にそのかみの若武者用
の威風凛々、清らかな姿を想はせる。いまは
何も思ひのことではない。昨日までの汝々
たる訓練は、想へば覚えある今日の日のため
であつたのだ。

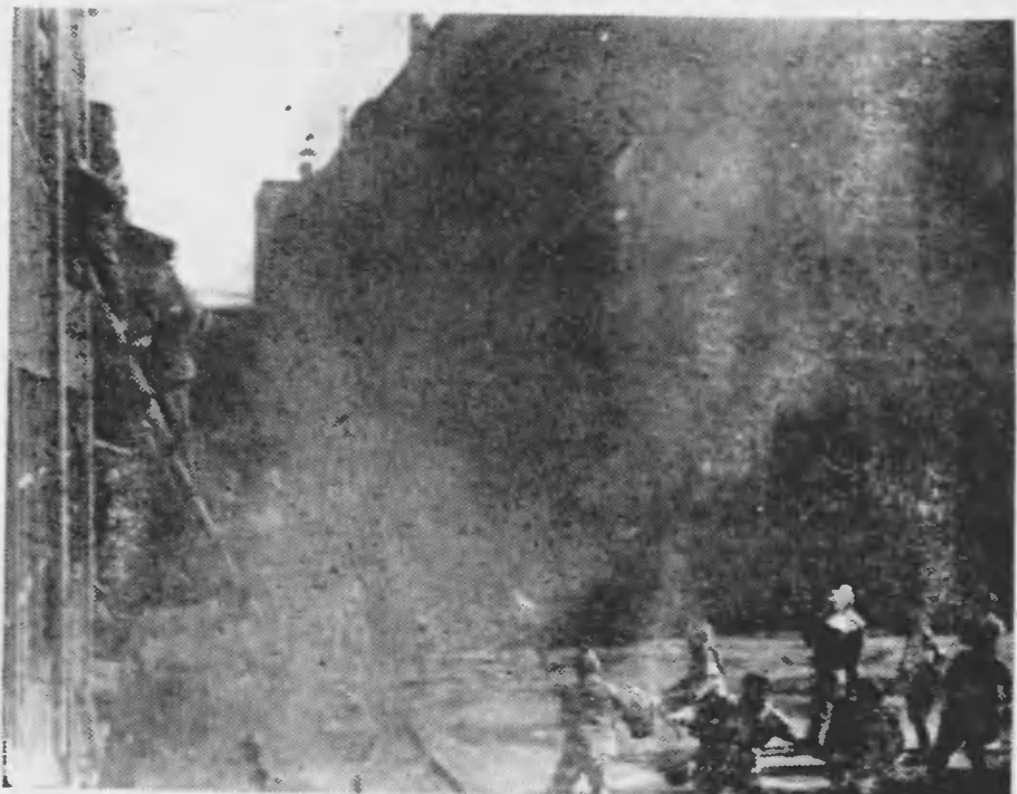
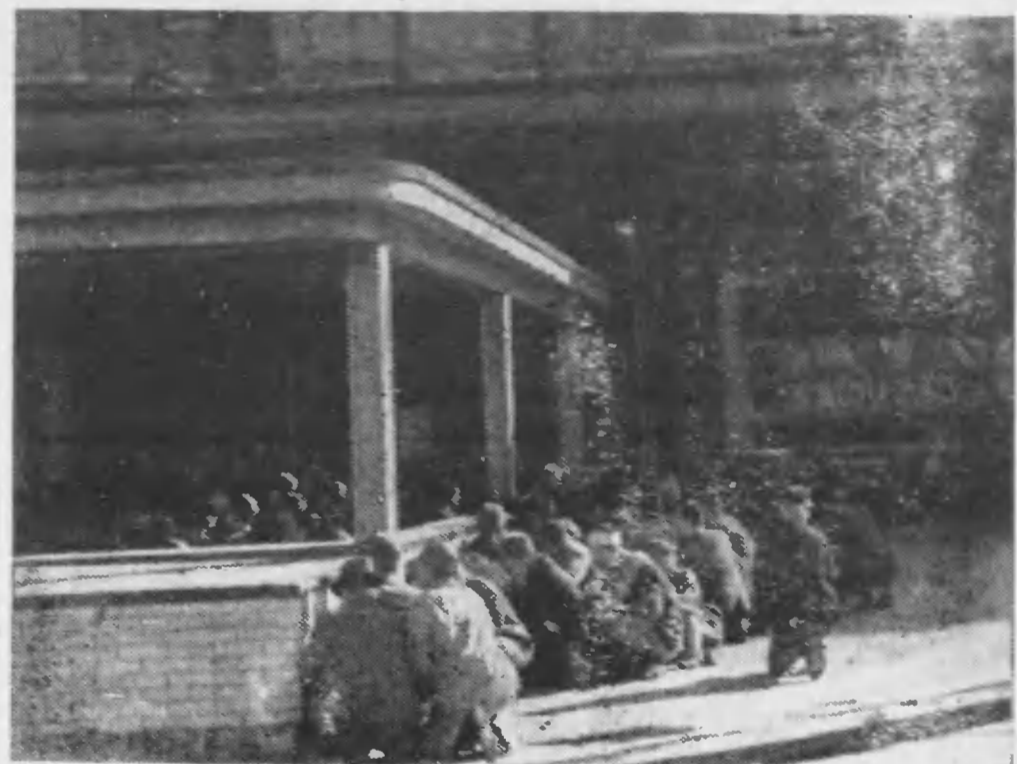
われらが祖先もまたかくて榮光の歴史
を創造した。われらもかくてその榮光に馳せ
参すのだ。ひたぶるに一死報國に燃える
學兵の胸宇には感動がみなぎつてゐた。



⇒ 班長に導かれて自分の内務班に入る。親切な指導
で、軍服を着る。肩幅も下着も靴下も
みなかへた。大団長は、この道を歩かなくては
ならぬ。大団長は、この道を歩かなくてはならぬ。

⇒ 營庭に整列。班長級の角はつた。肩幅も下着も靴下も
みなかへた。大団長は、この道を歩かなくては
ならぬ。大団長は、この道を歩かなくてはならぬ。

⇒ 軍大尉の訓示。訓示は、一語々々、沁み入る。その一、軍大尉がやつてこられた。殿たる陸
軍大尉の訓示は、一語々々、沁み入る。その一、軍大尉がやつてこられた。殿たる陸
軍大尉の訓示は、一語々々、沁み入る。その一、軍大尉がやつてこられた。殿たる陸



「家々、コトコトイイ音も非
 常持出品を背負つて
 〇〇に「敵機を撃つて
 降参は待たせ
 〇火筒につままれた工場も、特設防護手段の
 水は物も復舊し、操業の準備もあがる



大光玉龍米に備へよう

待避にも、消火にも、食料
 確保にも用意はよいか

東京都の防空訓練は、十一月二十三日から二十八日まで演習ながら行はれ、東部軍糧留参謀から「みんなよくやつた。殊に隣組の団結な意気込みには全く感心した」といはれたほどで、八百万都民が心を一つに燃え上らせ、日頃の訓練の腕前を發揮し、防空十二分の備へありと戦後戦場の頼もしさを示した
 これにこたへて二十日には、下谷區で空襲を備へて準備

初の配給挺身隊現地演練が行はれた。敵襲に炎上する揚米所、米袋貯蔵所、配給所を、警防團、隣組防火隊が必死に消しとどめる間にも、各物資の挺身隊は猛火をくぐつて、米、味噌、醤油、塩などを避難所へ運び出す。そこですぐ土を掘り、火をおこして移動炊事にかかり、四十分後には梅干入りのお握りがふつくとおいしうに出来上り、またヨイコには煉粉乳も配給される。かくて、空襲にも燃所は大丈夫と心強い演練を終へ、防空要人は固められた



それつとげかりかけつ
 ける女子挺身隊の駐足
 も勇ましく 右真中
 「大事な米を袋に入れて
 るのか」米袋の搬出
 に敢闘する隊員を觀察
 する大連都長官、土肥
 原東部軍司令官、上



茶碗に飯を盛り梅干を
 入れて握る。目にもと
 まらぬその早さ、おい
 しさをなお握りが怒ち
 出来る



泥んこの道も何のそのだ。水たまりにうつた姿も美しかった

都會から農村へ 移動演劇の贈物

東京

移動演劇隊員の日記より

東京都のうちとはいへ、南多摩郡稲城村といふ純農村だ。都内にもこんな農村があるのには驚いたが、それよりも驚いたのはけふの観客だ。何といふたくさんな観客だつたらう。聞けば今夜の入場者は三千人を超したといふことだつた。この村の人口は約七千人だといふから半分近い人が見に来てくれたわけだ。東京の大劇場でつてあんなたくさんな観客を前にして舞臺にたつことはできない。映畫の常設館も芝居小屋の一つもない農村、文化的な娯樂に恵まれない農村だからこそ、こんなに大勢の人達が十一月も末に近い寒さの、しかも夜の屋外で熱心に見てくれたのだ。そしてあんなにも喜んでくれたのだ。着飾つた東京の観客たちとは何といふちがひだらう。われを忘れて拍手したり、笑つたり、われ／＼の演技にほんとはびたりと溶けこんでくれているのだ。移動演劇隊員なればこそ感じることでできるこの感激、役者冥利につきるといふものだ。

この村へ小道具の荷物を背負つて歩いてきた時は『戦ふ演劇隊員』といふ自負に少ししい氣になつてゐたが、道々すつかり收穫を終つた田圃に立つて、早くも來年の増産を目ざしてまきまきと働いてゐる村の人々の姿をみたときには、使命に懸命なその態度に強い感謝の念が湧き上つてくるのをどうすることもできなかった。そして、よし、われ／＼も懸命な舞臺をつとめてこの人々の労苦を十分に慰めて上げなければと思つたことだつた。そして東京商工經濟會からわれ／＼をこゝへ派遣された使命もはつきりと掴むことができたのだつた。東京商工經濟會を代表して心からの感謝を農村の人々にうけて戴くのだ。都市と農村の人々の温い心の交流、それはたすのがこんどの移動演劇の使命だつたのだ。皆で組み上げた舞臺も、野天の樂屋風呂も、物めづらしさうに舞臺化粧のぞきこみにきた子供達も、みな忘れ難い印象だつた。さうだ、明日は出発前についで皆で妻まきのお手傳ひをさせてもらはうわれ／＼のまいた一粒の麥だつてきつとお役に立つたらう

丸太で組んだ舞臺だつたが、三番役の華麗な舞臺に
は村の業一同がわれるやうな拍手をおくつてくれた

舞臺は村のおきだつた。やすむ間も
早く早速本家で舞臺積占を始めた

商工業者ヨリ贈ル 新穀感謝演劇大會



村の人がわかつてくれた樂屋風呂の
素材さも農村らしい楽しさだつた

未作の人達の勞苦を思ひながら夜をそくまで隊員達がくりで舞臺も
作り大道具もならべた。舞臺壯年團の人達の手傳ひは嬉しかつた

昨夜見に来てくれた人達と妻まきをやつた。いさかでも農村の人達の助けにな
れば、われ／＼の感謝の氣持もとくだらうと思ふ。恰好は少し板につかないが



忘るな

戦費

緊めよ

生活!

大東亞戦争国債

昭和十八年八月二十七日

戦時貯蓄・報國債券

國債の購入に代る

國債貯金

隣組の割當も、國債・債券を買い代りに
なすべし、國債貯金を利費用せよ

大蔵省

寫眞週報
(禁斷轉載)

昭和十八年十二月十五日 印刷發行

情報局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

印刷局

東京郵政管理局

東京郵政管理局

印刷局印刷發行